

お釈迦さまの十大弟子 もくれんそんじゃ 目連尊者

平成24年3月第1週放送

もくれんそんじゃ 目連尊者は、じゅうだいでし 十大弟子と呼ばれる、お釈迦さまの代表的な十人の弟子の一人です。

目連尊者は「神通第一（じんづう じんづうだいいち）」と呼ばれています。じんづう 神通とは、じんづうりき 神通力ともいわれるように、超能力、他の人にはない力のことです。目連尊者は、超能力を使うことに長けていたといわれています。

どんな超能力を使えたのでしょうか。

それは、好きな場所に自在に現れることができる力であったり、どんな小さな音も聞きのがさない能力や、人の心がわかる能力などであったそうです。

みなさんは、これをうらやましいと思いますか？

できるものならやってみたいと思うでしょう。人にはない力を持つのは、とても気分が良いものです。

でも、これらの神通には、「死にたくない」という、私たちが最も願っていることをかなえる力が備わっていないのです。

実は、目連尊者が使える数多くの神通の中でも一番大切な神通があります。

それは「漏尽通（ろじんづう ろじんづう）」といいます。「せい し 生と死の真実をさとるためのちえ 智慧」のことです。

私たちは、死ぬことから逃げることはできません。それがいのちのありようなのです。そのいのちのありようをしっかりと見つめ、考え、一瞬一瞬を大切に生き、「せい 生と死の真実」をさとることが「ろじんづう 漏尽通」なのです。

「漏尽通」も、「死にたくない」という願いをかなえることはできません。しかしそれを乗り越える智慧を得るのです。

この「漏尽通」を身につけなければ、他の神通は単なるこけおどしでしかありません。それどころか、真実を求める心の邪魔にさえなってしまうのです。

目連尊者は、そのことをよく知っていたのでしょう。真実を求める心を保ち続け、自分の神通におぼ溺れることはありませんでした。真実を知ることには比べれば、好きな場所にあらわ現れたり、人の心がわかるということなど、大したことではないのです。

目連尊者は晩年^{ばんねん ほか}、他の教団の人々に襲われ死にました。盛んだった仏教を妬んだ^{ねた}人たちの仕業^{しわざ}でした。目連尊者は、その妬みを一^{いっしん}身に引き受けたのです。引き受けることで、他の仏教徒たちを救おうとしたのです。

神通を使って危機^{だっ}を脱することもできたのに、目連尊者はそのようにはしませんでした。彼は、「漏尽通」を深く身につけていたのです。そうして、自らの死を受け入れたのです。

— 終 —